

盛岡市遺跡の学び館 平成 27 年度テーマ展

「方八丁を掘る！－志波城発掘史－」

【平成 27 年 6 月 6 日～9 月 27 日】

資 料 集

古代城柵「志波城跡」出土土器実測図集成
(盛岡市教育委員会調査)



【志波城古代公園ガイド施設展示資料】

例言

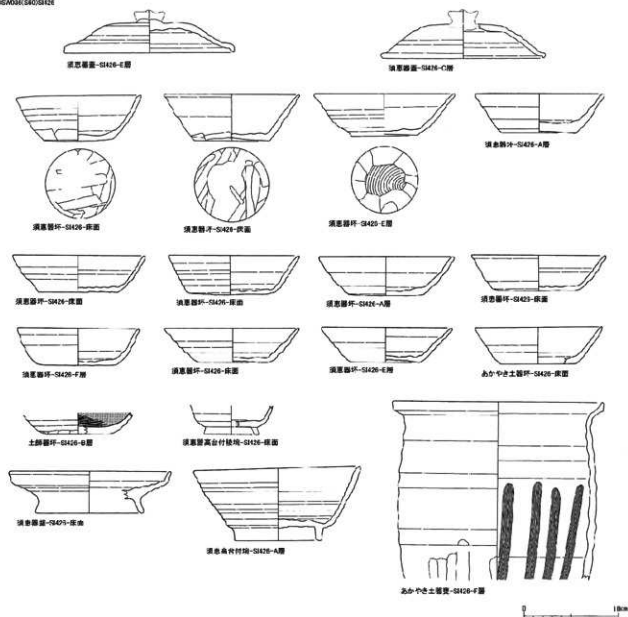
1. 本資料集は、岩手県盛岡市遺跡の学び館平成27年度テーマ展「方八丁を掘る！－志波城発掘史－」(2015年6月6日～9月27日)の展示内容を補足する、出土土器実測図集成である。
2. 土器実測図は、盛岡市教育委員会が刊行した発掘調査報告書に掲載されたものであり、スケールは1:4に統一して縮小し、キャプションとして土器種別・器種・遺構名・層名を記載した。

【集成図引用報告書】

- 盛岡市教育委員会 1979 『太田方八丁遺跡－昭和53年度発掘調査概報－』
盛岡市教育委員会 1982 『志波城跡－昭和55年度発掘調査概報－』
盛岡市教育委員会 1985 『志波城跡－昭和59年度発掘調査概報－』
盛岡市教育委員会 1986 『志波城跡－昭和60年度発掘調査概報－』
盛岡市教育委員会 1988 『志波城跡－昭和62年度発掘調査概報－』
盛岡市教育委員会 1990 『志波城跡－平成元年度発掘調査概報－』
盛岡市教育委員会 1991 『志波城跡－平成2年度発掘調査概報－』
盛岡市教育委員会 2003 『志波城跡－平成11～14年度発掘調査概報－』
盛岡市教育委員会 2005 『志波城跡－平成15・16年度発掘調査概報－』
盛岡市教育委員会 2011 『志波城跡－平成20・21・22年度発掘調査概報－』

目次

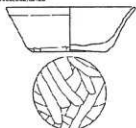
第1図 志波城跡第36次調査(S60)南東官衙城 SI426 堅穴建物跡 [9世紀前葉(「造志波城所」関連 803年頃)]	1
第2図 志波城跡第38次調査(S62)南東官衙城 SI428・430 堅穴建物跡 [9世紀前葉(「造志波城所」関連 803年頃)]	2
第3図 志波城跡第97次(H16)南西官衙城 SI459 堅穴建物跡 [9世紀前葉(「造志波城所」関連 803年頃)]	3
第4図 志波城跡第34次(S59)・102次B区(H20)政庁北方 SI425・460 堅穴建物跡, 第92次B区政庁西方 SI458 堅穴建物跡[9世紀前葉(「造志波城所」関連 803年頃)]	4
第5図 志波城跡第16次(S55)・51次(H2)郭内北部工房城 SI371・441 堅穴建物跡 [9世紀前葉(志波城機能期 803～811年)]	5
第6図 志波城跡第49次(H1)外郭南辺兵舎城 SI385・435・437 堅穴建物跡 [9世紀前葉(志波城機能期 803～811年)]	6
第7図 志波城跡第49次調査(H1)外郭南辺兵舎城 SI436・439 堅穴建物跡 [9世紀前葉(志波城機能期 803～811年)]	7
第8図 志波城跡第49次(H1)外郭南辺兵舎城 SI438 堅穴建物跡 [9世紀前葉(志波城機能期 803～811年)]	8
第9図 志波城跡第49次(H1)外郭南辺兵舎城 SI440 堅穴建物跡 [9世紀前葉(志波城機能期 803～811年)]	9
第10図 志波城跡第37次調査(S61)SB580 政庁西脇殿跡[9世紀前葉(志波城機能期 812年頃)]	10
第11図 志波城跡第85次調査(H11)SB540 政庁東脇殿跡・SD570 政庁西辺築地外溝跡, SD515 政庁南辺築地内溝跡[9世紀前葉(志波城機能期 803～811年)]	10
資料集解説 志波城跡出土土器群の特徴	11



第1図 志波城跡第36次調査(S60)南東官衙域 S426 竪穴建物跡

〔9世紀前葉(「造志波城所」関連 803 年頃)〕

00W01E(S62)S428



須惠器坪-SI428-東方YF 磁磁土



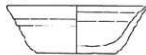
須惠器坪-SI428-P0



須惠器坪-SI428-伊直



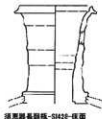
須惠器坪-SI428-西方YF 美脚



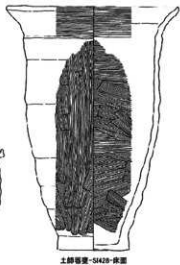
須惠器坪-SI428-A層



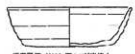
須惠器坪-SI428-A層



須惠器長頸瓶-SI428-伊直



土師器壺-SI428-伊直



須惠器坪-SI428-西方YF 磁磁土



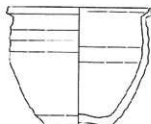
須惠器坪-SI428-P2



須惠器坪-SI428-伊直



須惠器坪-SI428-北方YF 磁磁土



赤カヤ土器小形壺-SI428-北方YF 文脚



05W01E(S62)S430



須惠器壺-SI430-伊直



須惠器坪-SI430-J層



須惠器坪-SI430-A層-長頸「回」



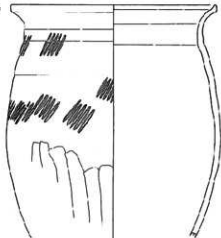
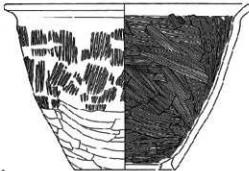
須惠器坪-SI430-J層



須惠器坪-SI430-A層



須惠器坪-SI430-J層



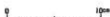
赤カヤ土器壺-SI430-J層



須惠器高台付埴埴-SI430-J層



須惠器壺-SI430-伊直



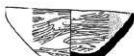
第2図 志波城跡第38次調査(S62)南東官街城 SI428・430 竪穴建物跡

〔9世紀前葉(「造志波城所」関連 803年頃)〕

OGW04(359)0422



土師器片-SI425-溝



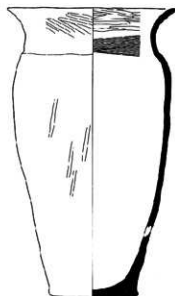
土師器片-SI425-方マド溝



土師器片-SI425



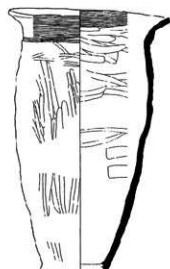
土師器片-SI425-方マド北高ノ部



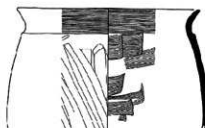
土師器甕-SI425-A5部



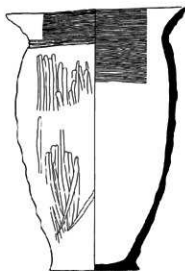
土師器甕-SI425-方マド左袖



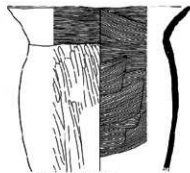
土師器甕-SI425-方マド右袖



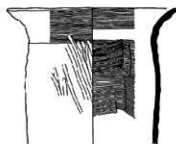
土師器甕-SI425-深底



土師器甕-SI425-方マド左袖



土師器甕-SI425-方マド右袖



土師器甕-SI425-方マド北高ノ部

0 10cm

OGW0328区1P(14)0426



土師器片-SI458-6部



土師器片-SI458-6部

0 10cm

OSW1(25)区9-0305/480



深直鉢型-SI460-深底



土師器片-SI460-0部

0 5cm

第4図 志波城跡第34次(S59)・102次B区(H20)政庁北方SI425・460 竪穴建物跡、
第92次B区政庁西方SI458 竪穴建物跡(「造志波城所」関連803年頃)

DSW04(S55)S371



土師器小形壺-S371-A5層-片断



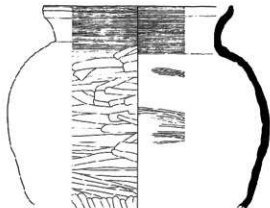
土師器壺-S371-A5層



土師器小形壺-S371-A4層-片断



土師器壺-S371-A4層



土師器埴輪壺-S371-A5層



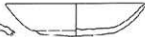
DSW09(KH2)S441



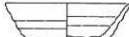
須惠器壺-S441-C2層-須惠「府」



須惠器壺-S441-C2層



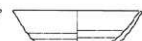
須惠器坪-S441-A層



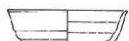
須惠器坪-S441-B1層



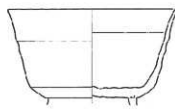
須惠器坪-S441-C2層



須惠器坪-S441-S2層



あかやせ土器坪-S441-C2層



須惠器高台付輪埴-S441-埴出蓋



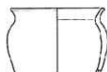
あかやせ土器坪-S441-C2層



あかやせ土器坪-S441-C層



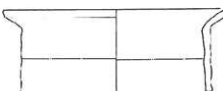
土師器坪-S441-C7層



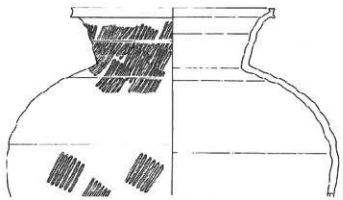
あかやせ土器壺-S441-C2層



あかやせ土器壺-S441-C2層



あかやせ土器壺-S441-C2層



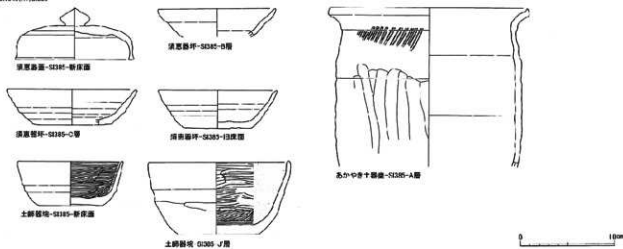
須惠器壺-S441-C2層



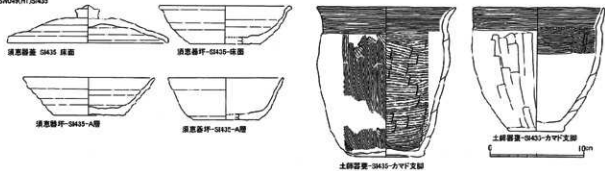
第5図 志波城跡第16次(S55)・51次(H2)郭内北部工房域 S1371・441 竪穴建物跡

[9世紀前葉(志波城機能期 803~811年)]

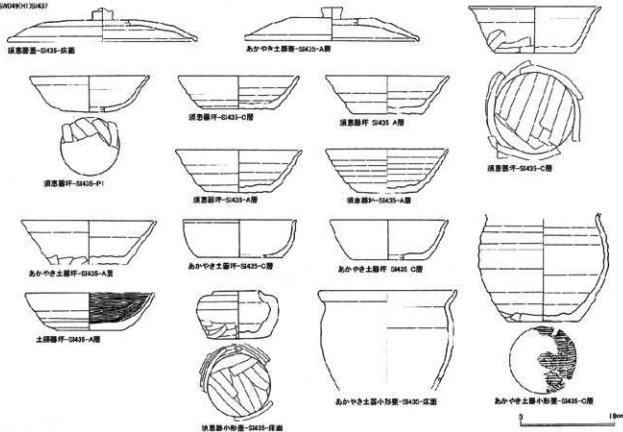
OSW040(H) 33385



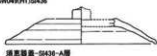
OSW040(H) 33435



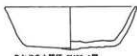
OSW040(H) 33437



OSW0493H1J5436



須恵器蓋-SI436-A面



あかやき土器坪-SI436-A面



あかやき土器坪-SI436-C面



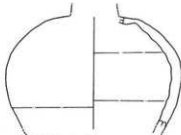
あかやき土器坪-SI436-D面



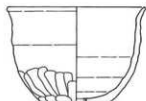
須恵器高台付鉢-SI436-C面



須恵器鉢-SI436-A面



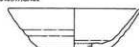
須恵器長柄瓶-SI436-C面



あかやき土器小形甕-SI436-D面



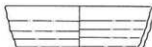
OSW0493H1J5439



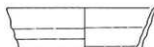
須恵器坪-SI439-表面



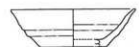
須恵器坪-SI439-表面



須恵器高台付鉢-SI439-J面



須恵器高台付鉢-SI439-表面



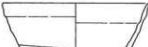
須恵器坪-SI439-C面



須恵器坪-SI439-表面



あかやき土器坪-SI439-D面



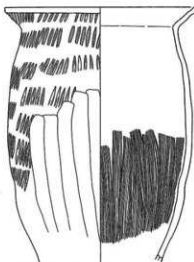
あかやき土器坪-SI439-J面



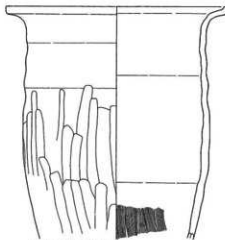
須恵器小形甕-SI439-表面



須恵器長柄瓶-SI439-表面



あかやき土器甕-SI439-表面

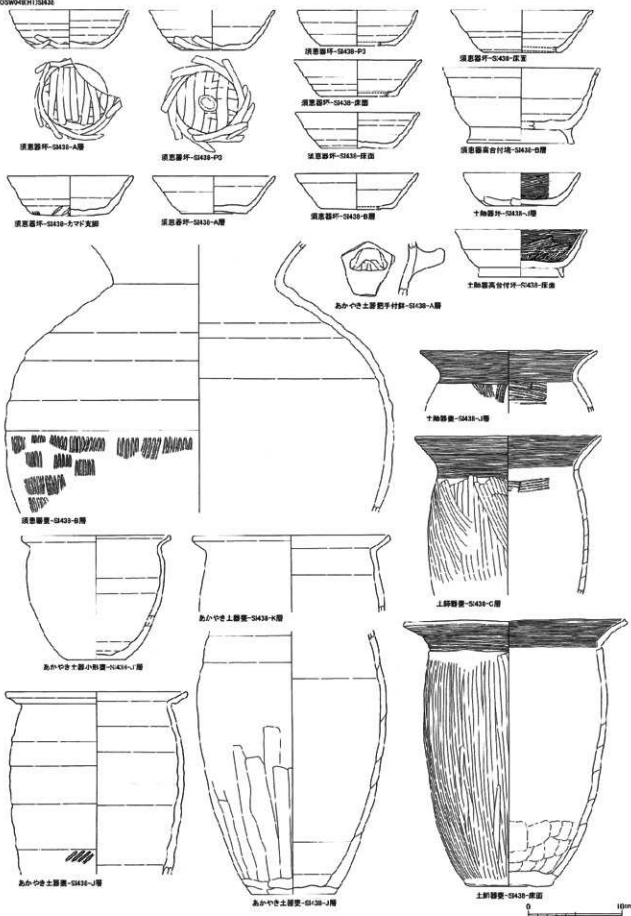


あかやき土器甕-SI439-表面



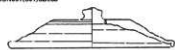
第7図 志波城跡第49次調査(H1)外郭南辺兵舎域 SI436・439 竪穴建物跡
〔9世紀前葉(志波城機能期 803~811年)〕

03W04E2H1J5438



第8図 志波城跡第49次(H1)外郭南辺兵舎域 SI438 竅穴建物跡
 [9世紀前葉(志波城機能期 803~811年)]

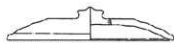
09W037381SB580



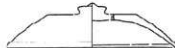
須惠跡屋-SB580-柱礎方採取穴



須惠跡屋-SB580-柱礎方採取穴



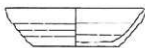
あかやき土器屋-SB530-柱礎方採取穴



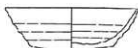
あかやき土器屋-SB530-柱礎方採取穴



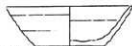
須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



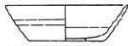
須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



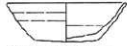
須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



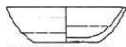
須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



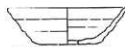
須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



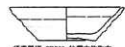
須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



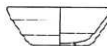
須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



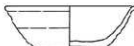
須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



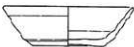
須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



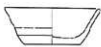
須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴



須惠跡坪-SB580-柱礎方採取穴

0 10cm

第10図 志波城跡第37次調査(S61)SB580政庁西脇殿跡〔9世紀前葉(志波城廃絶期812年頃)〕

09W053H11SD549



須惠跡屋-SB540-南溝

09W053H11SD570



須惠跡屋-SB570-横出溝

09W053H11SD515



須惠跡坪-SB515-礎土下層



須惠跡坪-SB515-礎土下層



須惠跡坪-SB515-礎土下層



須惠跡坪-SB515-礎土下層

0 10cm

第11図 志波城跡第85次調査(H11)SB540政庁東脇殿跡・SD570政庁西辺築地外溝跡・SD515政庁南辺築地内溝跡〔9世紀前葉(志波城機能期803~811年)〕

志波城跡出土土器群の特徴

盛岡市遺跡の学び館 津嶋知弘

1. はじめに

志波城（しわじょう）は、平安時代初頭、延暦22年(803)に畿内の律令政府によって造営された、古代陸奥国最北端・最大級の城柵である。征夷大將軍であった坂上田村麻呂（さかのうえのたむらまろ）が造営の指揮をとり、一辺840m四方の外郭築地塼と五間一戸の外郭南門、60m間隔の橋などが建設された。また、外郭築地線のさらに外側に一辺約930m四方の土塁を伴う外大溝を巡らし、城内中央には一辺150m四方を築地塼で囲んだ政庁を配置、その内外に多くの掘立柱建物が整然と建ち並んでいた。また、外郭築地塼の内側約100mの帯状の範囲に多くの堅穴建物が確認されており、志波城跡の大きな特徴のひとつとなっている。

本稿では、その志波城跡出土土器群を理解する上で不可欠と考えられる事項を明らかとした上で、その特徴を記述するものである。

2. 文献に見える「斯波(志波)」

志波城跡を中心とする、現在の雫石川南岸地域は、沖積段丘の微高地上に多くの古代集落が営まれていたことがわかっている。この地域の古代集落出土土器群の変遷を捉えようとする時、その複雑な歴史的背景・経過を十分に認識する必要がある。

大きな流れとしては、延暦22年(803)の志波城造営以前は、当該地域は律令政府の直接統治外であり、いわゆる「蝦夷(エミシ)」の時代であった。宝亀5年(774)に宮城県北の海道蝦夷が桃生城を攻撃したことを発端とする、律令政府と蝦夷集団との断続的な武力衝突は、いわゆる「38年戦争」と呼ばれており、国府多賀城が焼き討ちにあう(『伊治公昔麻呂の乱』)。一方、天応元年(781)に即位した桓武天皇は律令政府軍を岩手県南部の胆沢地域へと進攻させる。そのような中で、『続日本紀』宝亀7年(776)5月条に「出羽国志波村」の「賊」(=武装集団)が「叛逆」し「官軍」(=政府軍)が敗れたとの記事、また宝亀8年(777)12月条に「志波村」の「賊」が集結して「出羽国軍」と戦い、これを破ったとの記事が見られる。両記事に出てくる「志波村」とは、のちに建置される陸奥国「斯波」郡城を指すものと解釈して問題はないかと思う。しかし当時、律令政府は「志波村」を「出羽国」域と認識し(いわゆる「北狄」)、武力進攻した陸奥国「胆沢」の先に連続する地域(いわゆる「東夷」)との認識はなかったようである。これは、「胆沢」と「志波」の間の陸路の険しさによる隔絶感を示していると考えられるが、ともあれ、「志波エミシ」は律令政府軍を退けるほどの力を持つ大きな蝦夷勢力であったことは確かであった。

しかしこの先、志波エミシは、南方で律令政府軍と戦闘を続ける胆沢エミシとは、別の道を歩むこととなる。延暦11年(792)、「斯波村夷胆沢公阿奴志巳」(しむむらのえみし いさわのきみ アヌシキ)らは、律令政府への帰属を願い出ており『類聚国史』巻百九十、それを叶えるかのように、胆沢地方での戦いが終結し胆沢城が造営されてから、わずか1年で約54km北方の志波城が造営されるまでの間、戦闘や蝦夷移配の記録は残っていない。つまり、9世紀初頭段階で志波エミシが勢力を温存したまま、律令政府はその権威を誇示するため最前線として大規模・壮麗な志波城を造営したのである。

これは、志波城と在地蝦夷集落の土器群の変遷を考える上で非常に重要な背景であり、「志波城＝律令政府（陸奥国府）からの直接的な影響力が限定的であった（＝志波エミシが8世紀代からの伝統的な文化や伝統を保持し続けた）」という仮説を導くことができる。

3. 暦年代と志波城跡出土土器群

先述したとおり、志波城の造営年は『日本紀略』によると延暦22年(803)であり、廃絶年は『日本後紀』によると弘仁3年(812)と考えられる（志波城の移転先となる徳丹城造営も弘仁3年）。発掘調査の成果によれば、この10年の間に、政庁正殿の改修、東西門・北門の建て替え、官衙建物の建て替えが行われているほか、城内竪穴建物（兵舎）の重複（＝建て替え）が確認されている。

また、文献史学の研究成果によると、大同3年(808)に鎮官が国司と別任され胆沢城鎮守府が成立し、志波城の城司である鎮官の権限が拡大（＝鎮守副将軍の駐留）されている。また、徳政相論後の大同元年(806)年頃にはすでに、坂東方面徴発の他国（東国）鎮兵から陸奥国南部徴発の当国鎮兵へ転換していると考えられている。

これまで志波城跡出土土器群は9世紀初頭（9世紀前半、9世紀第1四半期）の標式的土器群と評価されてきたが、遺跡の性格は律令政府（＝「公」）が造営・運営した「城柵（行政府＋軍事駐屯地）」であり、その土器群の組成が周辺一般集落（＝「民」）にも普遍的に存在していたと仮定することは、志波エミシが勢力を温存していた当時の状況を考えて、合理的ではないと思われる。非クロコ丸底土器器杯を生産・使用していたエミシ達が、城柵造営を期に積極的に（あるいは強制的に）それらを放棄してクロコ土器器杯を生産（または供給され）・使用する合理的な理由がない。

以上のことを踏まえた上で、志波城跡出土土器群を城内の地区ごとに性格や年代を分けて検討することにより、その実態を明確にしたい。想定される城内各地区の年代とその性格は、下記のとおりである。

1. **政庁周囲「造志波城所」関連施設(工房)城** — 竪穴建物(803年頃)
「官(半民)」的性格、律令政府中央技術者・東国鎮兵（＋俘囚兵か）が関与
2. **政庁(区画施設・掘立柱建物)城** — 築地溝(803～811年)、建物柱抜取穴(812年頃)
「官」的性格、律令政府中央官人が関与
3. **城内工房城** — 竪穴建物(803～811年)
「官(半民)」的性格、律令政府中央技術者・在地技術者が関与
4. **外郭兵舎城** — 竪穴建物(803～811年)
「官(半民)」的性格、当初は東国鎮兵、後に陸奥国南部鎮兵（＋俘囚兵か）が関与

上記の1に該当するのが、政庁周囲や郭内北部で確認されている非クロコ土器器杯や球胴甕といった8世紀代に特徴的な土器が出土している竪穴建物である。従来これらは「志波城造営以前のエミシの集落の一部」と解釈されてきたものであるが、その分布や位置を見ると、大型住居と小型住居のセットという8世紀代集落到特徴的なあり方をせず、散発的に分布していることから、志波城造営期、特に『日本紀略』にみられる「造志波城所」（＝志波城造営官庁）関連遺構と考えるのが合理的と思われる。

4. 各土器群の特徴

次に、志波城内各区域の土器群について記述をすすめることとするが、いくつかの前提を明示しておく。対象とする土器群は、竪穴建物跡等の遺構から一括出土した土器群を単位としており、型式学的な資料操作は行っていない。つまり廃棄時の消費地組成をそのまま単位としている。土器の種別は、以下のとおりとしている。

【坏類（高台付、埴、鉢を含む）】

- 土師器坏A：非ロクロ整形，酸化炭焼成，内面または内外面にミガキ調整＋黒色処理
- 土師器坏B：ロクロ整形，酸化炭焼成，内面または内外面にミガキ調整＋黒色処理
(いわゆる「ロクロ内黒土師器坏」)
- 須恵器坏：ロクロ整形，還元炭焼成
- あかやき土器坏：ロクロ整形，酸化炭焼成 (いわゆる「ロクロ土師器坏」・「須恵系土器坏」)

【甕類（壺、長頸瓶を含む）】

- 土師器甕：非ロクロ整形，酸化炭焼成
- 須恵器甕：ロクロ整形，還元炭焼成
- あかやき土器甕：ロクロ整形，酸化炭焼成 (いわゆる「ロクロ土師器甕」・「須恵系土器甕」)

以下、各層年代に相当すると考えられる土器群を列記し、その組成・特徴を記述する。なお、従来の「竪穴住居跡」の遺構名称は、新版の『発掘調査のてびき』（文化庁文化財部記念物課 2010）に従い「竪穴建物跡」に統一している。

■9世紀前葉

志波城跡(城壕、律令政府)

政庁周囲「造志波城所」関連施設(竪穴建物) (803年頃)

- 志波城跡第36次調査 SI426 竪穴建物跡出土土器 (盛岡市教委 1986) [第1図]
志波城跡第38次調査 SI428・430 竪穴建物跡出土土器 (盛岡市教委 1988) [第2図]
志波城跡第97次調査 SI459 竪穴建物跡出土土器 (盛岡市教委 2005) [第3図]
志波城跡第34次調査 SI425 竪穴建物跡出土土器 (盛岡市教委 1985) [第4図]
志波城跡第92次調査 SI458 竪穴建物跡出土土器 (盛岡市教委 2003) [第4図]

組成(特徴)：

- 組成①—須恵器坏(口縁部直線の外傾，底部ヘラ切り・再調整)，
須恵器蓋・壺・高台付埴・稜埴・甕・長頸瓶，あかやき土器甕，土師器坏B(少数)
組成②—土師器坏A(体部有段風沈線・丸底風平底)，土師器甕(口縁部外反)

政庁区画施設(築地内溝)(803～811年)

- 志波城跡第85次調査 SD515 政庁築地内溝跡出土土器 (盛岡市教委 2003) [第11図]

組成(特徴)：須恵器坏(口縁部直線の外傾，底部再調整)

郭内北部工房域(竪穴建物)(803~811年)

志波城跡第16次調査 SI371 竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1981)〔第5図〕

志波城跡第51次調査 SI441 竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1991)〔第5図〕

組成(特徴):

組成①-土師器坏A?・土師器甕(口縁部外反, 長胴・球胴)

組成②-須恵器坏(口縁部直線の外傾, 底部ヘラ切り), あかやき土器坏(口縁部内湾ぎみ外傾, 非主体),

土師器坏B(口縁部内湾ぎみ外傾, 非主体), あかやき土器甕, 須恵器甕

外郭南辺兵舎域(竪穴建物)(803~811年)

志波城跡第49次調査 SI385・435・437 竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1990)〔第6図〕

志波城跡第49次調査 SI436・439 竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1990)〔第7図〕

志波城跡第49次調査 SI438 竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1990)〔第8図〕

志波城跡第49次調査 SI440 竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1990)〔第9図〕

組成(特徴): 須恵器坏(口縁部直線の外傾, 底部ヘラ切り・再調整),

須恵器蓋, 須恵器高台付埴, 須恵器長頸瓶,

あかやき土器(口縁部内湾ぎみ外傾, 非主体), あかやき土器甕,

土師器坏B(口縁部内湾ぎみ外傾, 非主体), 土師器甕(口縁部外反, 長胴・球胴)

政庁主要舎殿(西脇殿)柱抜取穴(812年頃)

志波城跡第37次調査 SB580 西脇殿跡掘方抜取穴出土土器(盛岡市教委1987)〔第10図〕

組成(特徴): 須恵器坏(口縁部直線の外傾, 底部ヘラ切り・糸切り・再調整), 須恵器蓋

5. 総括

以上, 志波城をめぐる複雑な歴史的背景・経過を確認した上で, 志波城跡出土土器群を城内の地区ごとに性格や年代を分けて検討し, その組成・特徴を明らかにした。志波城跡周辺の7世紀から11世紀までの古代集落遺跡の土器群変遷の検討が進められるにつれ(津嶋2013), 城掘出土土器の特殊性も明確になりつつある。これは, 志波城を特徴づける城内兵舎域の竪穴建物群の集成的検討(津嶋2014)においても, その構造的特殊性(在地エミシの「住居」ではなく, 坂東諸国徴発鎮兵の「兵舎」であること)が確認されていることとも連動している(志波城跡では城内兵舎3棟の復元が2015年春に竣工している)。

今後も続けられるであろう, 史跡現状変更や史跡整備に伴う内容確認調査出土土器の検討において, 本資料集が考察の一助となれば幸いです。

【引用・参考文献】

津嶋知弘 2004 「志波城と蝦夷社会」『古代蝦夷と律令国家』蝦夷研究会編 高志書院

津嶋知弘 2013 「古代「斯波(志波)」郡北部の土器群変遷(その1) - 雫石川南岸所在遺跡の盛岡市教育委員会発掘調査資料を中心に -」盛岡市遺跡の学び館学芸レポート Vol.002 (盛岡市ホームページ)

津嶋知弘 2014 「古代城跡の城内竪穴建物-志波城内竪穴建物の集成とその性格の検討」盛岡市遺跡の学び館学芸レポート Vol.002 (盛岡市ホームページ)